

2018年度 ATJ体験記

氏名： H. K.

卒業年月： 2018年3月 卒業学部・学科： 現代社会学部社会システム学科

派遣先学校名： Melton Secondary College

ATJの期間： 2018年4月16日～2019年4月5日（更新：無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語の復習をしました。また、日本語教師専攻でなかったため自主的に日本語教育についてリサーチし、少し勉強しました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

とにかくビザが心配でした。犯罪履歴証明書などを取りに行った関係もあって、ビザの申し込み完了が年明けになってしまい、その後イミグレから連絡も2ヶ月以上全然なく、出発まで残すところ3週間となりました。ATJコーディネーターと連絡はこまめに取っていたものの、かなり焦りが出てきてコーディネーターに申請サイトのスクショを送ったところ、まさかのビザがおりていました。申請サイトのページがわかりづらく、おりているのかわかってもよく見ないとわからなかったです。それにビザがおりたらメールが来るはずなのに、メールはその後今もなく、チェックしていなければずっと気づかないままだったでしょう。そんなこともあるのがさすがオーストラリアだなと思いました。なので、ビザを申請しても長期間連絡がない場合はしっかりチェックすべきです。飛行機はその後すぐ取りましたが無事取れました。（値段はギリギリなので少し高かったです。）

③ ATJとして経験した具体的業務

授業でアシスタントとして生徒の補助（質問に答えたり、ついていけない子の横に座りフォローアップなど）をしたり、また先生の補助（教材研究やマテリアル作成、宿題やテストなどの丸付け、プリントアウトなどの雑用）、先生が休んだ時に代わりに授業を行う（CRTという代わりの先生の監督のもと）、姉妹校から訪れた留学生の補助やアクティビティへ参加、先生とともにミーティングへ参加（全てではないが関係のあるものだけ）などです。私が教師志望だったことを先生が知っていたのもあり、放課後もかなり仕事を任されたり、先生が休みの時は授業をしたりしました。また、場合によっては、クラスマネジメントまでしました。ATJにしてはかなりの仕事を任されていたと思いますが、他のATJ参加者と比べても普通はここまで仕事をしないみたいなので安心してください。でも、その分生徒が私を先生だ

とってくれていたり、同僚でさえ「教師じゃないの？」と言われてたりすることもありました。とても良い経験になりました。

④ ATJ 以外の活動

ホストティーチャーに紹介してもらって、ジャパニーズフェスティバルのボランティアスタッフをしました。Geelong というビクトリア州の中でメルボルンの次に大きい都市で開かれたジャパニーズフェスティバルに他の ATJ 参加者とボランティアスタッフとして一日お手伝いをしました。たくさんの日本人コミュニティーの方ともお会いすることができて、良い経験になりました。また、知人が近所でお寿司屋さんをしていたので、たまに手伝ったりもしました。

⑤ ホームステイ

私はラッキーなことに最初のホストファミリーが生徒の家族だったのですが、とても良い家族で一年中そこにお世話になりました。一緒に買い物に行ったり、旅行にも行ったりしてかなり仲良くさせてもらったので本当に感謝しています。ただ、ほとんどの ATJ 参加者はホームステイ先が変わっている(1タームに1回ほど)ので、あまり期待しない方が良いでしょう。また、私の家は部屋がとても広く、バスルームとトイレも部屋についているゲストルームだったので全く苦勞しませんでした。これもレアだと思います。なので、何か嫌なことや問題があれば担当の先生や ATJ コーディネーターにすぐ連絡した方が良いでしょう。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

ストレスを溜め込まないことです。なかなか同じ境遇の人が周りにいないので、派遣先は違ってもせめて同じ ATJ 参加者同士で連絡を取り合って、たまには遊びに行ってお互いのストレスを発散してください。自分でストレスを発散できる方法を見つけるのも良いでしょう。私は普段全く気に病んだりしないのですが、オーストラリアののんびりとした環境(悪く言うと何事も遅く、ミスコミュニケーションが多く、オーガナイズがちゃんとされていない環境)や、人間関係によってストレスが溜まりすぎて気に病んだりもしましたし、体調不良にもなりました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

旅行が趣味なので、長期休暇の度に旅行をしていました。オーストラリアに留学している大学時代の友達とニュージーランドに旅行に行ったり、日本の親友とベトナムで待ち合わせをして旅行したり、夏休みには、仲の良い ATJ 参加者とシドニーに行ったり、ホストファミリーと一緒に西オーストラリア州に行ったりしました。ホストマザーのお姉さんが西オ

ーストラリアでマンゴーファームをしていたので、ちょうどマンゴーシーズンということで、一週間ほどマンゴーピッキングを手伝いました。なかなかできない経験だったと思います。また、ATJ が終了してからタスマニアに行きました。オーストラリアはとても大きいので旅行するところがあって楽しかったです。まだ完全に制覇できていないので絶対にまた戻ってきます。

II. ATJ の感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

生徒と良い関係が築けたことです。私の学校は荒れていて大変な学校でしたが、特になかなか言うことを聞かないような生徒とアシスタントティーチャーという立場を利用して、先生でもなく友達でもない、良い関係を築けました。最終日にはとても寂しいと言ってくれたり、帰らないでと言ってくれたりした生徒もたくさんいて嬉しかったです。卒業式に呼ぶから来てね、と言ってくれた子もいました。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

荒れているクラスでのクラスマネジメントがとても大変でした。先生がお休みで私が授業をしなくてはいけない時や、クラスマネジメントが苦手な先生と授業をする時は、私も積極的にクラスマネジメントをしないと生徒が言うことを全く聞かないし、歩き回って授業どころじゃなく本当に大変でした。ただ叱るだけでなく、生徒との信頼関係を築いた上で、言い方を考えないといけないのがとても難しくて苦勞しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

一番驚いたことは、日本とオーストラリアの教育の違いについてです。オーストラリアでは、生徒が常に先生の目の下にいなければならないというのが法律でも決まっているみたいです。そのため、教室や校舎も全て鍵がかかっていて授業時間以外入ることができなくて昼休みは生徒が締め出されるので、暑い日でも寒い日でも基本外(校庭)か図書館にいないといけないです。そして、生徒は昼ご飯を外で地べたに座って食べていることが多いです。また、先生はヤードデューティーという見張り役を交代でやらなければいけないのが大変だと思いました。特に私の学校はタフな学校だったので、昼休みによく喧嘩がおこったりして、それを止めないといけないのでとても大変そうでした。さらに、副校長が5人もいたのに驚きました。

次に、国柄にも驚きました。オーストラリアはのんびりした国だとは聞いていましたが、何事もゆっくりで、よく忘れられたりします。何かをネットで頼むと、小さいものでも配送に最速でも2~3日、遅いと10日くらいかかりました。あとはミスコミュニケーションが本当に多いです。何かを約束してもすぐ忘れられたり、契約などの内容が間違っていた

り、何度もリマインドしたり確認することが必要な気がしました。逆に言うと、オーストラリア人はそこまで深く気にしない人が多いようです。もちろん全ての人がそういうわけではないです。でも、あまり気にしすぎないのもいいことだと思いました。

Ⅲ. A T J 参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは必須です。学校によっては貸してもらえるところもあるようですが、借りられたとしても、とても古くて遅いパソコンなので使い勝手がとても悪いです。また、海外のパソコンなので、使いにくかったりもします。日本から自分が使い慣れているパソコンを持っていくことを強くお勧めします。

② これからA T Jに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

他の A T J 参加者や友達と連絡をとりながら遊んだりお茶をしたりなどして、日頃のストレスを解消して、楽しく過ごしてもらいたいです。留学などとは違ってなかなか友達もできなくて、学校の先生もあまり同世代がいなくて、友達を作るのに苦労しました。そして他の A T J 参加者以外に同じような状況の人があまりいなくて、悩みを共有しづらかったりしてストレスが溜まると思うので、A T J の友達はとても大切だと感じました。

Ⅳ. 進路

① 現時点での進路（A T J の継続、就職先など）

帰って教員採用試験の勉強をし、日本で高校の社会科教師になる予定です。

② 将来の夢

高校の社会科教師になることです。できれば日本の高校で留学生のヘルプをしながら教師をしたいと思っています。せっかくなので英語の教員免許も取りたいと考えています。

また、将来海外で教師をするのもいいなと思っています。海外の日本人学校で働くか、もしくはオーストラリアかカナダが良いなと考えているところです。オーストラリアの教育システムはある程度理解しているので仕事がしやすいのと、カナダは大学在学中に留学して、将来住んでみたいと思っていたところなのでいいなと感じています。

2018年度 ATJ体験記

氏名： M. M.

卒業年月： 2018年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文科

派遣先学校名： Bayside P-12 College

ATJの期間： 2018年4月15日～2019年2月26日（更新：無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

大学で副専攻制度を活用して、日本語教育プログラムの授業をいくつか受けていました。私は副専攻を修了していませんが、日本語の教授法や文法などを学ぶことができ現地でも役に立ったと思います。また、大学3年生の時には、同志社大学、学外でボランティアとして日本語会話パートナーとして活動していました。大学生や社会人の方が相手だったのでATJプログラムの児童や生徒とは色々と異なりますが、海外から見る日本の良さや疑問点など日本で生まれ育った私には気づかない視点からの意見は、日本について考え自身の意見を持つ良いきっかけになりました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

渡航手続きは、前年にATJに参加していらっしゃった先輩にフォローしていただき、同年のATJ仲間と情報交換しながら準備を進めました。

③ ATJとして経験した具体的業務

- ・ 現地の日本語の先生の授業補助(教科書の音読、クラス内の見回り・フォロー)
- ・ 日本語の先生が休まれた時に代わりの授業の運営
- ・ 長期休み前など日本語アクティビティの企画・運営(折り紙、おにぎり作り教室など)
- ・ 1対1の会話練習授業の準備・授業運営

④ ATJ以外の活動

一度日本フェスティバルの運営ボランティアに参加しました。現地で家族を持ち生活されている日本人の方々とお話することができ、良い刺激を受けました。また、休日には様々な交流会が開催されています。私は、何度か土曜日に行われていた英語、韓国語、中国語、日本語が話せる人の交流会に参加しました。Facebook や紹介の情報をうまく活用して、交流の機会を自分から見つけてみて下さい。

⑤ ホームステイ

滞在中同じ家族にお世話になりました。とても素敵な家族で本当に感謝しています。しかし、他人と一緒に住むこと、ましてや文化も言語も違う家族と共に暮らすことは簡単ではありません。私は食事の面で受け入れられない面などもありました。そういう時は、我慢せず、家族に伝えましょう。または、担当の先生に相談するのも良いでしょう。不満や疑問があれば、我慢せず伝えることが大切です。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

[健康面]私は、幸運にも大きな怪我や病気もなく過ごすことができました。しかし、現地で生活を始めてすぐは鼻風邪になることが多くありました。原因は、メルボルンの一日の中で大きく変化する気温に身体がついていけなかったからだと思います。そんな時には、日本から持参した薬や現地で購入した市販の鼻風邪薬を使用していました。

[治安面]夜の外出は特に気をつけた方が良いでしょう。夜道を一人で歩かない、帰りが遅くなる際は家族に迎えを相談するなどするようにして下さい。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休みは、ほとんど家を留守にしていました。バリ島やニュージーランド、シドニーなどに旅行に行きました。また、メルボルンでバーベキューやピクニックや海などを楽しみました。

II. A T Jの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

最も思い出に残っていることは、最後の学内行事「水泳大会」です。生徒や先生に囲まれて日本のお菓子を食べながら話していた、何気ない空間がとても印象に残っています。というのも、現地で活動を始めてすぐに開催された学内行事では、一人ぽつんと寂しい思いをしました。そこから一年、自分なりに一所懸命活動してきて、それがちゃんとみんなに伝わったのだなと思うととても嬉しかったです。帰国するとすぐに日本に馴染み、メルボルンでの活動が夢だったような気がします。しかし、生徒やホストファミリーや友人と連絡を取り合っていると、「私が一年間メルボルンで日本語を教えたこと」を思い出させてくれます。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

辛かったことは、食事が十分に食べられないことがあった時です。冷蔵庫に何もなくて、1日に一食という時もありました。最初は遠慮して我慢していましたが、ストレスはどんどん溜まっていきます。いざ勇気を出してマザーに言ってみると「言ってよ（笑顔）」と、すぐに食料を買いに行き解決できました。日本人は『空気を読む』のが得意ですが、オーストラ

リアの人は言わないと絶対わかってくれません！『伝えること』を大切にしてください。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

食べ物が甘い。油っぽい。

Ⅲ. A T J 参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

日本から MacBook を持って行きましたが、学校のプロジェクターに接続できず少し不便でした。渡航する前に、パソコンを借りられるか先生に聞いてみると良いでしょう。

② これから A T J に参加しようと思っている後輩へのアドバイス

このプログラムの参加に悩んでいる方へ

私は、大学3年生から地元の県庁で働こうと学校に通っていました。そんな時にこのプログラムを知り、悩んだ末参加することを決めました。同学年の友人たちが就職活動をするなか、そして社会人として働く中、不安に思うこともありました。しかし、今は心の底からこの ATJ に参加してよかったと言えます。日本では絶対に気づけなかったであろうこと、日本で働く前に感じられてよかったことなど、言葉にするのは難しいですが、言葉通り、いろいろなことを学ぶことができます。しっかりじっくり悩み、できるなら帰国後のことも考えながら決断して下さい。頑張ってください。

Ⅳ. 進路

① 現時点での進路（A T J の継続、就職先など）

現在、既卒生として大学生と一緒に就職活動中。旅行業界、英語教育業界を受けています。

② 将来の夢

「地元の子たちの世界を広げたい」というブレない柱があります。それがどういう面からかどういう方法かはまだ模索中です。これから就職するであろう企業で経験を積んで、将来の夢につなげたいと思っています。

2018年度 ATJ体験記

氏名： F. S.

卒業年月： 2018年3月 卒業学部・学科： 表象文化学部英語英文学科

派遣先学校名： St Patrick's primary school ・ St John's primary school

ATJの期間： 2018年4月18日 ～ 2019年4月5日（更新： 無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

副専攻で日本語教育を勉強したほかに、資格も取りたいと考えていたので、日本語教育について少し勉強しました。また、旅行に行った際には英語のパンフレットを集めました。担当の先生と連絡をとり、子どもたちが好きそうなシールや折り紙を買いました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

ビザの申請が一度では出来なかったため、コーディネーターの方に相談して卒業見込証明書と簡単な履歴書を追加で送りました。二度目の申し込みで申請がおりたのは一月後半でした。

③ ATJとして経験した具体的業務

日本語の先生が進められる授業の中で、先生がその授業で紹介したい日本語の言葉の発音をしたり、授業開始と終了のあいさつをしたり、机間巡視をして声をかけたり、などです。また週に一回配信される学校のニュースレターに日本の文化紹介や日本語の授業内容を書くこともしました。また、8月と3月に日本から協定校の児童が来ました。その際はオーストラリアの児童と日本の児童との間に入り、みんなが楽しめるように声かけをたくさんしました。

④ ホームステイ

短い滞在も合わせると、学校の児童（3家庭）、学校の教頭先生、日本語の先生、日本語の先生のご両親の6家族にお世話になりました。初めてのATJ受け入れということもあり、ホームステイ先を探すのが大変だったと聞きました。毎回ホストファミリーとお別れをするのは寂しい気持ちになりましたが、どのご家族も温かく迎えてくださったので、いろんな家族といろんな町で良い時間を過ごすことが出来ました。

⑤ 健康面、治安面で注意すべきこと

建物の作りの関係かわかりませんが、家の中や学校の中は夏でもひんやりすることが多かったです。特に朝晩は冷えるので暖かい服装は一年を通して必要だと思いました。また動物を飼っている家庭が多いと思います。私は猫アレルギーではないと思っていましたが、猫がいるとくしゃみや鼻水が止まらなくなることがあり、オーストラリアで薬を買いました。スーパーでいろんな薬を買えますが、心配な場合は日本から持参した方が良いと思います。

⑥ 長期休暇の過ごし方

ATJの友達と旅行をしたり、日本から友達が来た時に一緒に旅行をしたり、ホストファミリーと日常を過ごしたり、その時期によって様々でした。

II. ATJの感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

日々の授業がどれも思い出です。日本語が好きな児童ばかりで、学校ではもちろんですが、小さな街だったので街中でも会うと毎回「こんにちは」と声をかけてもらえることが嬉しかったです。

② 辛かったこと、最も苦勞したこと

毎週金曜日は日本語の授業がなく、日本語の先生も学校に来られない日だったので時間を持て余してしまうことが嫌でした。授業準備等で進めておけることを先生に聞いても、金曜日はゆっくりしていいよ、と言われ、学校に行っても暇なことが多かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

小学校では床に座ることが多いので、最初は違和感がありました。

III. ATJ参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

生活用品や衣類はほとんど日本から持参したものを使いました。オーストラリアでもほとんど揃いますが、自分が使い慣れているものが良かったので、足りなくなったら日本から送ってもらいました。和風なメッセージカードをたくさん持って行ったのは役立ちました。

② これからATJに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

日本で生活するだけではわからない文化や生活習慣、学校の雰囲気等を知ることができとても良い経験になると思います。

IV. 進路

① 現時点での進路（A T J の継続、就職先など）

帰国後は小学校で英語の授業準備、補助等のアルバイトをすることが決まりました。

② 将来の夢

小学校で英語を教える仕事がしたいと思っています。日本語教師も考えているので、また勉強をする予定です。

2018年度 ATJ体験記

氏名： M. H.

卒業年月： 2018年3月 卒業学部・学科： 学芸学部国際教養学科

派遣先学校名： Mount Clear College

ATJの期間： 2018年4月16日 ～ 2019年4月5日（更新： 無）

I. ATJレポート

① ATJ参加決定から出発までの準備期間（英語、日本語・日本文化に関わる学習）

英語は何も準備しませんでした。学校にもよるとは思いますが、1年間ATJプログラムに参加してみて、英語力はあるに越したことはないと思いました。なぜなら、学校では日本語以外の先生とも働きますし、生徒に説明する時は英語だからです。もし英語力に自信がなければ、日本語や日本文化に関わる学習よりも英語の学習を優先することをお勧めします。私は中高一貫校でATJをしましたが、日本で売られている外国人学習者向けの日本語文法などの本よりも、派遣先の学校で使われている教科書の方が断然わかりやすいと感じました。

② ATJ参加決定から出発までの準備期間（渡航手続き関係）

- ・12月11日：ATJオリエンテーション
- ・12月19日：海外旅行保険の契約
- ・1月5日：犯罪経歴証明書を京都府警に取りに行く
- ・12月下旬～1月上旬？：ビザ手続き（1月29日にビザの許可がおりました）
- ・1月下旬～2月上旬？：航空券を買う

③ ATJとして経験した具体的業務

～授業中～

- ・板書のお手伝いをします。先生から例文を書くように指示があった場合、できるだけ生徒が新しく習った文法や漢字を使うように心がけていました。
- ・生徒がワークブックなどをしている時は、見回って、つまづいている子を助けてあげたり、質問に答えたりしました。（※生徒に質問された時は、ただ答えを教えるだけでなく、なぜそのようになるのか説明するといいですよ。）

～授業外～

- ・作文やテストなどの添削。
- ・テストやワークシートなどの作成。先生の方から「次のテストはこういう内容で…」とア

アイデアをもらえるので、それを形にしていきました。

- ・ Speaking の練習。Year 12 の生徒に空きコマに来てもらって、個別で Speaking の練習をしました。Year 12 は VCE というテストが 10 月の初め頃にあり、その Speaking 対策を ATJ が担当しました。

④ ATJ 以外の活動

私が派遣された学校は留学生の受け入れにも力を入れていた学校だったので、日本からの留学生のサポートも少しさせて頂きました。

また、日本の協定校からグループで短期留学に来られた時は、通訳を担当することもありました。

週末はヨガやピラティスのクラスに通っていました。

⑤ ホームステイ

30 代後半のお父さん、お母さん、そして 12 歳と 10 歳の女の子がいるお宅にステイさせて頂きました。1 年間ホームステイ先を変えることなく過ごして、最後には「家族の一員だ」と言ってもらえるくらい仲良くなることができました。

⑥ 健康面、治安面で注意すべきこと

寒暖差が激しいので、風邪を引きやすい人は特に注意が必要かと思います。私は長期休みで日本に一時帰国した時に、鼻づまりのまま飛行機に乗ったので両耳が中耳炎になってしまいました。とても痛い思いをしたのと、数日間、音があまりクリアに聞こえなくなってしまったので、皆さんも気をつけてください。

⑦ 長期休暇の過ごし方

ホストファミリーとメルボルンに行ったり、シドニーに行ったり、友達とタスマニア島に行ったりしました。また、12 月～1 月にかけての夏休みは、1 ヶ月ほど日本に一時帰国しました。私は ATJ 終了後、オーストラリアに残るか日本に帰るか悩んでいたもので、一時帰国は自分の将来を考えるいい機会になりました。

II. ATJ の感想

① 最も楽しかったこと、最も思い出に残っていること

オーストラリアでの生活は毎日とても楽しかったので、「最も」楽しかったことや思い出に残っていることを述べるのは難しいですが、特に 11 年生、12 年生の授業は楽しく、生徒ともいい関係を築けたので思い出に残っています。また、日本語のスピーチコンテストに出た 10 年生 3 人が入賞し、そのうち 1 人は優勝したので約 2 週間無料で日本に留学すること

ができました。ずっと「日本に行きたい！将来は日本語の先生になりたい！」とモチベーション高く勉強していた生徒で、一緒にスピーキングの練習をしていたので、私もとても嬉しかったです。

最後に、先生方に” You are the best ATJ we’ ve ever had!” と言っていただけたこともとても嬉しかったです。

② 辛かったこと、最も苦労したこと

私は9年生～12年生の授業を主に担当していたのですが、9年生は言語の授業が選択必修だったため、「日本語を勉強する意味が分からない」「つまらない」という生徒もいたので大変でした。また、9年生の初めの学期はカタカナを学ぶところからスタートし、生徒に「カタカナの覚え方を教えてほしい」と言われた時に返答に困りました。文法よりも「ひらがな」「カタカナ」「漢字」などの暗記物を教える方が大変だと感じました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

生活面では、洗濯の仕方に驚きました。雨が降っていても干したままで、「晴れたらそのうち乾くだろう」という考え方にも驚きましたが、私のホストファミリーは『朝洗濯→干さずに仕事に行く→夕方帰宅してもう一度すすぎだけして干す』ということもしばしばありました。家庭によって違うとは思いますが、日本やカナダで暮らしていた時は濡れた洗濯物を干さずに放置することがなかったのでとても驚きました。それから、果物は基本的に量り売りなので、バナナ一本からでも買えることに驚きました。

学校生活の面で驚いたことは、日本の学校に比べると先生方がとても自由で、空き時間にパソコンでドラマを見ながら採点している先生がいたことです。また、日本に比べると先生方が休みやすい雰囲気があると感じました。日本では「みんなが休まないから私も休めない」という風潮があるように思いますが、私が派遣された学校では「あなたが休んだときは私がカバーするから、私が休んだときはよろしくね」というような雰囲気でした。

Ⅲ. ATJ参加希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

- ・パソコンは持って行って正解でした。テスト問題を作ったり、ワークを作ったり、日々とても役立ちました。
- ・「日本らしい」ポストカードも、誕生日カードの代わりに使うと喜ばれました。オーストラリアではよくカードを送ることがありますが、私は絵を書くことが苦手なので、いざという時に隙間を埋められるシールやマスキングテープがあると便利だと思いました。
- ・これはATJの業務には関係ないですが、もしATJ終了後に日本で就職活動をしようと思っているなら、SPIの問題集などを持って行くといいと思います。日本の就活に役立つよ

うな本はオーストラリアでは買えないので、一冊くらい持っていると、オーストラリアにいる間に就活の準備ができますし、日本に帰った時にスムーズに就活を始めることができるのではないかと思います。

② これからATJに参加しようと思っている後輩へのアドバイス

1年間オーストラリアで働いてみて、「留学」とはまた違って海外で「働く」という経験ができたことを誇りに思います。大学卒業時には将来何がしたいのかよく分かっていたんですが、1年間オーストラリアで働いてみて、『どんな人生を歩みたいのか』『これからどうやって社会に貢献していきたいのか』が明確になりました。これは個人的な意見ですが、人生の生き方は人それぞれなので、「新卒が…」「就活が…」と心配しなくても、自分の心に素直に従って進路を決めればいいのではないかと思います。私自身、就活を全くしていなかったのも、オーストラリアに来る前は「本当にこれでよかったのか…」と心配になることもありました。今は胸をはって「ATJプログラムに参加してよかった！」とすることができます。皆さんにとっても素晴らしい1年になりますように。

IV. 進路

① 現時点での進路（ATJの継続、就職先など）

初めはATJを6ヶ月間延長する予定でしたが、日本に帰国し、就職活動をすることにしました。とりあえずは新卒採用のルートで就活をする予定です。派遣先の日本語の先生達から、「もし就職先がすぐ決まって、次の年（2020年）の4月までやることがなかったらいつでも戻っておいで」「就活が上手くいかなかったら戻ってきたらいいよ」と言っていたので、もしかしたらまた6ヶ月間ATJとして働くかもしれません。

② 将来の夢

語学事業に多角的に関われるような企業に勤めて、英語を学ぶ人や日本語を学ぶ人のサポートをしたり、グローバル人材の育成に貢献したりしたいです。